

通訳案内士 秋元 美佐氏 (高校40期)



2020年東京オリンピックを迎えたとき、私は50歳。そのときになにをしているのか。一つ想像できる光景があります。それは外国人をもてなして日本文化を伝えているシーン。新しい国立競技場がみえる。東京オリンピックの開会式の場に私は居る。

インバウンド※に興味をもったのはわりと最近のことです。現在の会社が外資系企業ということもあります。職務はHR(人事)マネージャー。自らの英語力アップのためTOEIC勉強をスタート。どうせやるならと目標スコアを900点に設定。はじめは600点台と恥ずかしい点数でしたが半年後に950点。ついだからと満点を目指し、勉強開始から2年後ついに満点990点を取得しました。

その副産物として、通訳案内士という国家資格を知り、これがインバウンド興味に拍車をかけました。

※インバウンド(Inbound)とは、訪日外国人旅行のこと。

TOEIC高得点で英語筆記試験免除とはいえ、他に三科目、日本史・地理・一般常識の筆記試験にパスしなければならず、どの科目も相当難しい。自らを受験生と鼓舞し、科目免除を受けるためセンター試験も受験しました。英語での二次面接試験、厳しい質問やつまこみにも満面の笑みでなんとかクリアし、二回目の挑戦で合格。今はこれが天職になる気がしている。

インバウンドの世界に挑戦しよう！ そんな志を立てたところにこの原稿依頼をいただきました。「みなさん、何歳からでも挑戦できる！」ここで高らかに宣言します。

思えば大学を卒業してから約四半世紀。サラリーウーマンとしてずっと働き続けてきました。数々の困難もありました。逃げ出したい瞬間もありました。そのとき出会った二冊の本に救われました。

一つが、「超バカの壁」(養老孟司著)。「仕事というのは社会に空いた穴」「目の前の穴をひたすら埋めなさい」「若いときは仕事に意味を求めない」これは本当に至言。仕事が嫌だな、と思ったらこれを思い出す。つべこべ言わず目の前の穴を埋め続ける。そうすると自分を必要としている人や仕事が向こうからやってくる。その流れに乗って今の自分がある。確かにそうなのです。

もう一つが、「走ることに語るときに僕の語ること」(村上春樹著)。自分をマラソンにいざなった作品であり、体を鍛えることの重要性に気づかせてくれた本です。とりわけ文中で披露される名言が忘れられない。少し長いですが紹介します。

『Pain is inevitable, Suffering is optional.(中略)あえてごく簡単に訳せば、「痛みは避けがたいが、苦しみはオプション(こちら次第)」ということになる。たとえば走っていて「ああ、きつい、もう駄目だ」と思ったとして、「きつい」というのは避けようのない事実だが、「もう駄目」かどうかはあくまで本人の裁量に委ねられていることである。』

これら二冊の本を通して(あるいは彼らの姿勢から)学んだことは、

「朝活(早起き)と(適度な)運動で生活を整える」

「コツコツと地道に継続し丁寧に暮らす」

最後に簡単に略歴を記します。立高生のみなさん、とくに女子のみなさんに、こんな先輩がいるのか、と参考になると嬉しいです。

◆立川高校時代

剣道部、応援団女子団長、文化祭では落語を披露。卒業と同時にカナダへ留学。英語を身につけたい！ 思いで行ったけれど上手いかず一年で帰国。

◆早稲田大学人間科学部に入学

心理学、認知行動療法を勉強。

◆一社目とカラダを鍛える

94年HP(当時横河ヒューレット・パッカー)へ入社。はじめ営業アシスタント。98年人事のキャリアをスタート。厚生労働省認定産業カウンセラー資格取得。

2005年秋ランニングをはじめ。はじめは5分も走れば脚が痛くなったけれどめげずに継続。

◆二社目とフルマラソン

2006年Mフィナンシャルグループへ転職。初レースは青梅マラソン10キロ。その年の年末ホノルルマラソンに挑戦、初フルマラソン完走。その後年に最低一回はフルマラソンレース完走を目標(いまも実行中)。

◆三社目とTOEIC

2008年外資系広告エージェンシーに転職。2012年TOEIC勉強開始。600点台から10月に目標の900点突破、950点。その後2014年990点満点取得。

◆趣味の広がり資格取得

2015年地元あきる野市の歌謡大会デビュー。

2017年通訳案内士国家資格合格(今後は旅行に関連した資格を取得していくつもり)

2018年インバウンドビジネス立上げ(予定でも確信)



国内、海外フルマラソンレースに出走。写真は2017年1月ドバイマラソンゴール



定期的に父と妹とともに歌謡大会で熱唱！